

いたち川の魚

南部 久男

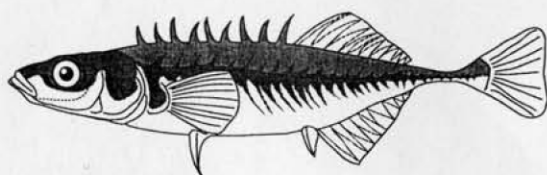
川にすむ魚の顔ぶれは、川の形や流れ方などによって違います。いたち川は、郊外の水田地帯の馬瀬口から、住宅地、市街地、そして神通川へと合流する神通川水系の一つの小河川ですが、全体的に流れが早く単調な河川といえます。

そのため、いたち川で多く見られる魚は、流れのあるところにすむウグイやアユ、ヨシノボリの仲間などで、所々見られる深みにはフナの仲間などがわずかにすんでいます。

魚の顔ぶれの変化（上流の馬瀬口から下流の神通川合流点まで）

馬瀬口から高速道路あたりまでは、コンクリートでできているうえ、所々段差があるため、魚はほとんどすめません。

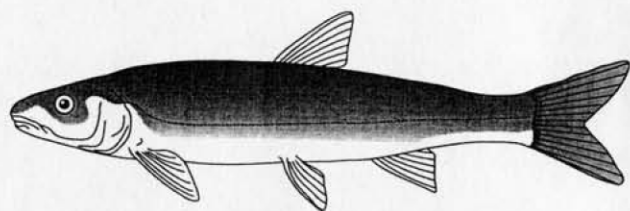
太田橋付近から魚が見られるようになり、水神橋付近までは、土砂の堆積した川岸の流れの緩いところや、コカナダモが生えるようなところには、ウグイに似たタカハヤがよく見られます。トゲウオの仲間のトミヨも数箇所で見られました。トミヨは、有峰ダムから流れてきていたち川に住み着いたと思われます。



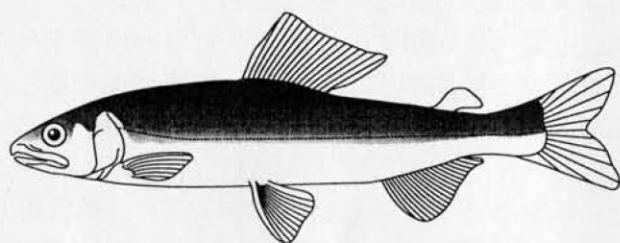
トミヨ（有峰ダムより流れつきすみつくようになった）

水神橋付近は、いたち川で最も魚の種類が多い場所です。「ドンドコ」と呼ばれる落ち込みや、それに続く瀬には、ウグイ、オイカワ、アユ、そしてヤマメなどが見られます。アユやヤマメは清流を代表する魚です。川底の石の間にはハゼ科のトウヨシノボリやウキゴリなどが、深みにはギンブナなどが見られます。

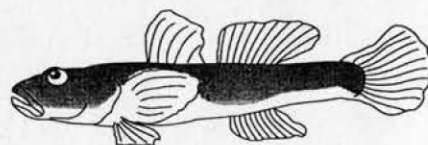
水神橋より四ツ谷橋までは、魚の顔ぶれはあまりかわりありませんが、流れのあるところには、ウグイ、オイカワなどが、川底にはトウヨシノボリなどが見られます。神通川との合流点付近には、河口付近に主な生息場所のマハゼが遡上してくることがあります。



ウグイ（いたち川でもっとも多い魚の一つ）



アユ（水神橋より下流で見ついている）



トウヨシノボリ（川底に多い）

新たに発見された魚

今回の調査で記録された魚のうち、多くみられる魚の顔ぶれは10年前の調査とほとんど変わりませんが、新たにいたち川にすみついた魚も見つかりました。流れのあるところではカワムツが、川底ではニゴイ、カマツカなどが見つかりました。これらの魚は、神通川にすむ魚ですので、松川等を通じていたち川に進入してきたのかもしれない。

（脊椎動物担当 なんぶ ひさお）